

## 第6回古賀市基本構想審議会 議事要旨

### 【開催概要】

開催日時：令和3年6月18日（金）19：00～20：00

開催場所：市役所第1庁舎4階第1委員会室（オンライン併用）

出席者：

（委員）南会長、稲永副会長\*、豊貞委員\*、山田委員\*、角森委員、木下委員、芝尾委員、清水委員\*、高原委員\*、玉谷委員\*、中西委員、深江委員\*、藤井委員\*、松永委員\*、三輪委員\*、安武委員、吉田委員、石原委員\*、荻原委員\*、木村委員\*、崎村委員\*、柴田委員\*、谷口委員\*、内藤委員\*、原田委員\*、三戸委員\*、宮基委員

（古賀市）田辺市長、横田副市長、総務部長、市民部長、人権センター課長

（事務局）経営戦略課長、経営戦略係長、経営戦略係員

（※についてはオンラインでの参加）

### 【議事・要旨】

1. 開会	
2. 会長あいさつ	
3. 議事 ○政策1-4 人権と多様性の尊重	<p>●事務局：</p> <p>【資料8】「人権と多様性の尊重に係るご意見と対応」に基づき、政策1-4 人権と多様性の尊重について説明。</p> <p>「男女共同参画」を1つの施策として分けた方が良いという意見と分けない方が良いという意見の2つの意見が出ている。「男女共同参画」を施策として分けない場合を対応案1、施策を分ける場合を対応案2という形で示している。どちらの対応案が良いかご審議いただきたい。</p> <p>&lt;委員からの意見、質問&gt;</p> <p>○委員：</p> <p>「男女共同参画」は1つの施策として分けた方が良いと考える。なぜなら古賀市においては、男女共同参画について若い世代が身近に感じていないからである。区長も含めて女性を登用できていない。市民レベルで浸透するためには施策レベルで記載すべきである。</p> <p>○委員：</p> <p>既にパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度など多様な性に関する施策を講じているため、古賀市の基本構想においては、男女という形で性別を分ける必要はないと考える。男女共同参画に関する個別の計画の中で具体的に記載するものとする。</p> <p>○委員：</p> <p>「分野別の現状と課題」では、人権・男女共同参画・多文化共生という項目が挙げられているのに、「施策とその方向性」では、なぜ男女共同参画という表現が抜けているのか。</p>

●事務局：

当初の検討では、「性別にとらわれない多様な生き方の尊重」の中に男女共同参画の概念が含まれていると考えていたため、現在のような記載となっている。

○委員：

- ・序論の現状と課題に記載があるように、個人の生き方だけが問題なのではなく、社会の仕組みや古賀市において男女共同参画が進んでいない現状が問題である。
- ・防災の分野において、女性の視点を取り入れた防災計画や女性の防災リーダーの育成に力を入れている自治体もあるが古賀市ではこうした記載が全くないのではないか。
- ・10年後には男女という考え方はないと言われているが、世界経済フォーラムによる「ジェンダー・ギャップ指数」では日本は121位となっているなど、先進国でも最下位に位置する。今後10年間で取り組む必要があると考える。

○会長：

- ・政策4-3「命と暮らしを守る対策の推進」において女性の視点に関する記述が足りていないというご指摘については、事務局にて検討いただきたい。
- ・記述内容は、他の施策分野と同様、包括的な記述となっていることに留意し、指摘の内容は既に表現がされていると考える。その上でしっかり施策として立てるべきという意見は対応案2に近いという事で承った。

○委員：

ジェンダーの不平等で様々な問題が起こっているが、特定の性別の立場からではなく、視点で考える必要があるのではないか。それを支えるのが教育活動であると考えて。古賀市で男女共同参画を進める指標として、一人ひとりが違い、多様性を認め合うといった施策を考えたほうが良いのではないか。

○委員：

「多様性」という言葉を使うのにあえて「男女」という言葉を出すことに違和感がある。現在ジェンダーフリーという言葉が使われており、古賀市でも全国に先駆けて取り組んでいる中、あえて「男女」という言葉を使うのか。

●担当課：

施策名「人権と多様性の尊重」という表現は、男女共同参画の推進も含めて「多様性」という表現をしている。

○委員：

広島大学の見解では、男女共同参画やジェンダー平等の政策は性別にかかわらず個人の尊厳が重んじられ一人の人間としてのびのびと活動できる社会になることを目的と

	<p>している。性の多様性を尊重するということは同じ。しかし現状では男女の格差は様々な分野で生じているため、男女格差がなくなるまでの間の措置として過渡的に差別是正措置として目標を定めている。経済格差や物事を決める過程の中に女性が入れない現状があるため、きちんとターゲットを定めるという意味で、明確に施策として挙げたほうが良いと考える。</p> <p>○会長： 基本構想や社会全般で極めて重要な概念である。委員間でも異論がないところである。実際には施策、事務事業を行っていくなかでは、包括的に多様な視点のもとまちづくりが行われる。審議会ではなんらかの形で収れんする必要がある。</p> <p>①対応案1（施策を分けない場合）が良いか、②対応案2（施策を分ける場合）が良いか、③どちらでもよい（自分の中で決定できていないも含む）、の3択で決を採りたい。</p> <p>（採決）</p> <p>○会長： 会長を除く本日の出席者26名の過半数を上回る委員が②対応案2に挙手と認識。採決の結果、対応案2（施策を分ける場合）で可決としたい。</p>
4. その他	
5. 閉会	事務局：次回の審議会の日程及び説明